

【ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画策定について】

実施計画策定の背景と目的

現状

平成26年1月に策定した海の京都与謝野町マスタープランに基づき各戦略を実施

H17:国重要伝統的建造物群保存地区に選定

R5:日本遺産認定継続決定

R6:旧尾藤家住宅（街道内）国指定重要文化財に指定

課題

○一方で、海の京都与謝野町マスタープランの戦略の中で、現状との乖離が発生

例えば、

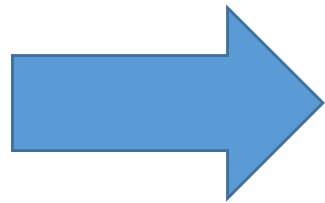
- ・視察を踏まえ、街道内道路の自然色舗装を実施しないと判断
- ・実施し、完了した戦略が掲載されている 等

○与謝野町の魅力を活かせていない（ミスマッチ）

○お金を落とすところが少なく、観光消費額が上がらない

○そもそも“観光のまち”という意識がない

○人口減少や空き家増加 等



海の京都与謝野町マスタープランの「ありたい姿」、「基本テーマ」、「目標・イメージ」は受け継ぐが、戦略については見直すこととし、新たな戦略として、「ちりめん街道滞在交流マスタープラン実施計画」を策定します。

策定までのスケジュール

時 期	項 目	内 容／ゴール
【済】 7月30日（火）	第1回委員会	実施計画における ①方向性決定（持続可能な観光地域づくり） ②実施計画の期間確定（3か年） ③ターゲット確定 ④実施プロジェクトの役割分担(確認)
【済】 8月19日（月）	第2回委員会	実施計画における ⑤KPI・KGIの確認 ⑥街道重点振興マップの協議（ゾーニング）
【済】 9月5日（木）	第3回委員会	実施計画の内容協議
10月17日（木） 14時～	第4回委員会	実施計画の最終確認
10月～11月	町HP、広報紙等	公表

第1回委員会(7/30)振り返り

○基本方針3点の決定

決定事項	概要
実施計画の方向性 「持続可能な観光地域づくり」	住環境の保全に配慮し、安直な観光開発が行われることのないよう、地域の経済・環境・社会文化のバランスを適正に維持した地域づくりを指す。
実施計画の期間 「3か年(R6~R8)」	第2次与謝野町総合計画後期基本計画との整合性を図るため、令和6年度から令和8年度までとする方針。
実施計画における来訪者のターゲット層 「4つのターゲット」	「リピーター」「学生」「周遊/滞在者」「文化体験を求める方」 環境負荷の少ない観光を推進する上で、誘客を目指したいターゲット層4つを提案。

○重点事業一覧への主な意見

「インバウンド向けガイドについて、海の京都エリアでやっと3名いる現状の中、与謝野だけで3名の育成は難しい」

「ALTモニターツアーは与謝野以外の近隣市町からもALTに参加いただくのが効果的」

「ターゲットとする『学生』『文化体験を求める方』に向け、どんな取組をするのかが未記載。その役割分担や具体的なプロジェクトの内容の検討が必要」

「地元区民の、ちりめん街道に対する関心が高いか、または、そうでもないか調査する必要がある」

「これまでの取組で、十分に実施できていなかったPDCAサイクルを今後どう回していくかが課題」

第2回委員会(8/19)振り返り

○目標KPI・KGI、街道重点振興マップ（ゾーニング）の決定

決定事項	概要
実施計画における 目標KPI・KGI	実施計画の3か年で、地域の担い手の確保や空き家の利活用を進めることが必要なことから、空き家の利活用2件やリピーター率10%、新規ガイド1名・日本遺産体験コンテンツ数5件を数値目標化（KPI）。観光消費額増加、地域の担い手確保、住環境や町並みの維持保全をKGIに設定。
実施計画における 街道重点振興マップ（ゾーニング）	観光協会北側（旧牛田邸）から旧産業銀行（下村邸）まで。主に空き家の商業利用や体験型コンテンツを提供するにあたり、旧加悦町役場庁舎や旧尾藤家住宅が接する道で、来訪者の滞在交流が生まれやすいと想定されるため。

○重点事業一覧への主な意見

「空き家バンクに登録されていなくても、まず相談できる場所や情報提供ができる仕組みを整えることが重要」

「受動的な方も一緒になって重点事業を動かすために、事業着手を促す仕組みや外部からの刺激が必要」

「今単身で住んでいる高齢者や後継ぎがない方などに対しても、どのようにして所有物件を次の方に引き継いでいくか、先手を打って相談・情報共有していくことが必要」

「与謝野駅周辺では民間事業者による賑わい創出に向けた取組が進んでいる。観光客の呼び込みには駅との連携は必須」

「空き家に限らず、事業者に使って欲しい物件があれば、その所有者を口説きに行くなど行動が必要。まだ見ぬ移住者に頼らない姿勢が大切で、地域で来てくれた事業者を買い支えるなど、お店に人が集まるような機運醸成が必要」

「小さくてもやってみることで、優先順位をつける（住民と来訪者がwin-winの取組が優先）といった視点の協議が重要」

「地域一体でトライアル出店を支援する体制づくりや、地元の方の能動性を促す地域の目指す方向性の見える化も重要」

第3回委員会(9/5)振り返り

○重点事業一覧の内容確認

協議事項	概要
【提案】空き家活用に係るアイデアコンテスト	民間による活用と出店利用の促進を図るため、重点振興エリア内の空き家を対象とした同コンテストを実施し活用方法を募るもの。
【提案】地域おこし協力隊の導入	空き家活用担当で1名、観光コンテンツ造成担当で1名の計2名を配置するもの。
その他	各重点事業の内容について再度確認

○重点事業一覧への主な意見

「コンテストについては、実際にプレーヤーまで呼び込むことを想定するなら、デザイン案だけでなく出店する事業者像やビジネスモデルの設計まで盛り込んだアイデアが必要。なお、既にプレーヤーが関与しておりアイデアだけ求めたい物件については、活用案のみ収集するのもあり。」

「観光施設の説明板について、英語版にすること以外にも、例えばウェブサイトのQRコードを入れる、100年前の風景写真を掲示する、リンクで飛べるようにすることが効果的。」

「ガイド育成について、重点事業とKPIに掲載している内容に齟齬が生じているのでは。英語可能なガイドが1名なのか、50～60代のガイドが1名なのか整理が必要（両方該当するガイドの育成は難しい）。」

「コンテストありきではなく、創業したい、空き家で何かをしたいという事業者があれば、その方々にも常に出店の門戸が開かれている状態にしておくことが必要。」

「重点事業のボンネットバス運行について、無理にボンネットバスに指定する必要はないのでは。既存の路線バスを活用し観光プランを組んでいくのもあり（昨今の運転手不足に対応するため）。」

「地域住民の取組については、ちりめん街道への誘客や受入環境整備について、区民の関心がどれだけ高いのか調べた結果によって、取り組むべきか否かを定める順序が必要。」